



1. *Subtract Blink*, 2024, oil on canvas, 910 x 727 cm
© Marefumi Komura, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery

wink

小村希史「ウイंक」

この度、Akio Nagasawa Gallery Aoyamaは、8月22日（木）～9月28日（土）まで、小村希史の個展「ウイंक」を開催いたします。この機会に是非ご高覧ください。

「ウイंक」という言葉には、まばたきをする行為の他に、何かを示唆する、暗示すること、そして情報やアイデアを与えるための小さな手がかりという「ヒント」の意味があります。画家は絵を制作する過程で、その作品に向かってウイंकをすることがありますが、これは単眼で視覚を駆使し、立体的なキャンバスを平面的に見ることで、構図やプロポーション、色彩のバランスの崩れを見つけ出す行為です。ウイंकをすることで、一時的に作品から離れ、客観的な視点で問題点や改善すべき点を発見し、試行錯誤を繰り返して表現を追求します。

複雑な現代社会は全体像の把握が難しく、極端な意見や価値観の対立が分断を深め、ポラリゼーションが進み、時に深刻な問題を引き起こしています。画家が制作過程で片目を閉じるように、私たちも社会の問題を客観的に見て、幾度もやり直しながらバランスをとり、より良い社会へ向かってほしい。「ウイंक」というタイトルには、そのような希望が含まれています。

今回の新作絵画は垂直に左右で分かれた画面構成となっています。片方の画面では筆致が目立ち、掠れや塗り残しが見られ、キャンバスの素材感や物質性が強調されています。これにより、鑑賞者に創造性や参加の余地を与えています。もう一方の画面では、ここ数年小村が取り組んできた手法「サブトラクト Subtract（取り去る、差し引くこと）」を用い、筆致が取り除かれ、静けさの美を引き立てています。2021年に発表した水平に上下で異なる画面を描いた『地平線 Horizon』展と呼応したシリーズととらえることができます。これらは画面の対比が強調されていますが、同時にバランスが存在しており、小村の一貫した問題意識と希望の兆しが込められています。

《作家略歴》

小村 希史（こむら まれふみ）

1977年生まれ。東京を拠点に活動を行う。主な展覧会に「コンシーラー」（2022、AKIO NAGASAWA GALLERY、東京）、「地平線 Horizon」（2021、AKIO NAGASAWA GALLERY、東京）、「ダイヤモンド」（2019、AKIO NAGASAWA GALLERY、東京）、「大きな船 / Big Ship」（2019、The Mass、東京）、「Flower Huddle」（2016、The Mass、東京）、「3331 Art Fair –Various Collectors' Prizes–」（2014、アーツ千代田3331、東京）、「アートがあればII — 9人のコレクターによる個人コレクションの場合」（2013、東京オペラシティ アートギャラリー、東京）など。

■オフィシャルサイト <http://www.marefumikomura.com>

■Instagram http://www.instagram.com/marefumi_komura

《開催概要》

作家名 小村 希史（英表記：Marefumi Komura）

タイトル 「ウイंक」 （英表記：wink）

会期 2024年8月22日（木）～9月28日（土）

11:00-13:00 / 14:00-19:00 木・金・土曜（日～水曜・祝日休廊）

会場 Akio Nagasawa Gallery Aoyama

〒107-0062 東京都港区南青山5-12-3 Noirビル2F

TEL：03-6427-9611 / FAX：03-6427-9612

<https://www.akionagasawa.com/jp/exhibition/wink/>

《関連書籍》



『wink』

[2024年 / 自費出版 / 102 x 63mm / 128頁+プラケース / ED 100]

本書では、片方のページには小村のスクラップのアーカイブから選ばれたコミカルなイメージから不安を呼ぶイメージまで、無秩序なウイंकに関するさまざまなイメージが配置されています。もう片方のページには、水彩、油彩、アクリル、コラージュ、マジックペンなどによるドローイングが収められています。これらのイメージはお互いに対話し、偶然の一致が生まれることで、小村の絵画への構想を垣間見ることができます。

《関連グッズ》



『End Loop Wink』

[2024年 / 自主制作 / 30min / ED 100]

今回も小村の曲の最後の音だけをループさせるという「エンドループ」のアイデアを継続し制作されたカセットテープ。「wink」というテーマで構成され、パチパチ弾けるノイズ音が意識的に使われ、さまざまなイメージを呼び起こす試みがされています。

"非常に壊れやすいエンドループの音たちは、動機も方向性もなく一つの譜面の上に浮かんで、音の起源も不明だ。始めから死にゆくその音たちは、常に消えつつあり、常に消えるために再び生まれ変わってゆく……" — ロバート・ミリス



2. *Subtract Friendliness*, 2024, oil on canvas, 910 x 727 mm
© Marefumi Komura, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery



3. *Subtract Communication (s)*, 2024, oil on canvas, 455 x 380 mm
© Marefumi Komura, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery



4. *Subtract Fashion*, 2024, oil on canvas, 410 x 318 mm
© Marefumi Komura, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery



5. *Subtract Make-up*, 2024, oil on aluminum, 455 x 380 mm
© Marefumi Komura, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery

《広報・ご取材に関するお問い合わせ》

AKIO NAGASAWA Gallery | Publishing (中田) nakata@akionagasawa.com

《広報用画像》ご希望の画像番号をお申し付けください。